

<今朝の聖書から>

【先週の続き】“神の言葉”その中心の一つは、そして現代の教会にも息づいていることです。“日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい”ということでしょう。十字架を背負うなんて辛そうだし試練に耐え抜くことを意味しているように感じる人が多いでしょう、じつは、“十字架を背負って”というのは、主の救いを背負ってということでもあるのです(ルカ9:23)。

【十字架を背負わない】十字架を背負わない生き方、というのが、その反対として問題になるでしょう。“自己実現の正義”、“ハングリー精神に支えられ、アメリカンドリームに支えられた、勝利者・成功者としての生き方”って、何となく憧れるように思えることがあるでしょうが、ここには、主の恵(十字架)がともなわれるということは、ないのです。日本の教会は、いろいろの経路をたどってやって来たのですが、アメリカの教会の歴史が日本に押し付けた、最悪の教えの一つがこれなのです。

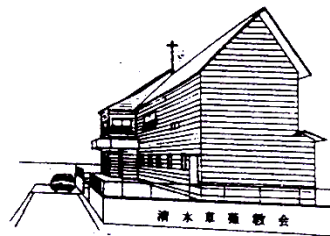
【自分の十字架】“あなたにふさわしい、あなたでなければならない能力(恵と務め)”といってもよい)が大切です。“やりたいことも特にない”、“希望などというのは宗教者の言葉”と思ったとしたら、その時、主の恵も十字架も伴っていないのです。かつての教会では、聖職が一番価値ある仕事と教えられたことがありました。しかし私たちが、“日毎のわざの祝福”を祈る時、これが間違いだということが分かりました。みな同じように、主から与えられた“価値ある”日毎のいとまみののです。“日々の糧”と、“仕事の祝福”を主に感謝することができるとき、主の十字架もまた、伴うのです。そうでない時には、“嘆きやいら立ち”が、十字架の代わりに伴うのです。それを負っていることになります。

【天国の姿】十字架の救いが完全に伴うことと、ピリピ2:12にある“恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい”という御言葉の完成された姿・御国を、弟子たちは経験させて頂きました。“ペトロと仲間は、ひどく眠かったが、じつところえていると(ルカ9:32)”と、我慢していた弟子を、勇気づけるように、天国を体験させて頂いたのです。彼らには人知を超える力で、それがモーセであることもエリヤであることもすぐに分かりました(9:30)。

【教会の幸せ】教会も実は分かっています、“十字架の救いがともなうことを”。しかし、“自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい”という御言葉が遠のき、実に重い罪を背負って、毎日を暮らすことになってしまうのです。このような中からは、受難節を過ごす信仰者の教会生活は生まれません。神は私たちの主を、“これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け(9:35)”と紹介して下さっているのです。9:33に“ペトロがイエスに言った。「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです」。ペトロは、自分でも何を言っているのか、分からなかったのである”と、思わずペテロは、ありきたりの、後で考えると自分でも、変だと思うような返事をしてしまいました。けれど、私たちだったらもっと変な返事をするかもしれません。その私たちに、十字架の救いと復活が、いま与えられるのです。このような、とぎれなく天国につづく、毎日を送っているのが私たちの教会です。

週報

2011年 4月 3日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042